

あきた自動車人材育成研修 品質・安全管理セミナー

開催内容 自動車関連産業への参入やビジネス拡大の一環として製造部門における品質と安全の基礎を学ぶセミナー



トヨタ生産方式に学べ “お客様”目線の品質と安全管理

製造現場の品質管理とは

製造業に関わる全ての県内企業に向けて、2019年2月21日、秋田県庁内で上林プロジェクトマネージャー（PM）による「品質・安全管理セミナー」を開催した。

上林PMは、大手自動車メーカーであるトヨタ自動車東日本㈱の品質管理部に38年間勤務し、5年前に当センターの同職へ着任。特に秋田県の産業分野の重点施策である自動車産業振興を強力に支援してきた。



同セミナーは県およびあきた自動車産業振興協議会が主催するもので、製造工程の品質管理、品質と安全の関わりについて理解を広めることを目的に、上林PMが就任以降、毎年継続してきたもの。当初は秋田市のみで開催していたが、参加企業や製造に携わる企業から要望があり、県北・県南地区も会場に加わった。会場が増えたことで、現場に関わる若手や中堅が気軽に参加できるようになり、現在までの受講者は延べ110社250名を数える。

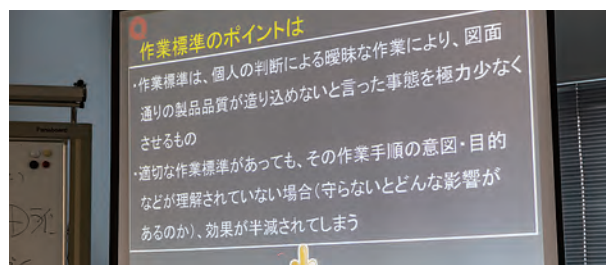


休憩中、熱心に質問を投げかける参加者

“標準のないところに改善はない”

上林PMは、大前提として「品質とはお客様のためにある。例えば不具合発生が10,000件に1件の場合、発生率にすれば0.01%だから問題ないという考えでは、不具合が起きた1人のお客様のことをないがしろにしている」と話し、製造部門が本来なすべきは品質の維持・管理と強調。

特に、重要なキーワードとして製造ラインで忌避されやすい『止める』を例に挙げ、「悪いものを流さないためにラインを止めるだけでは不十分。止めることの意義は、問題を顕在化させ、関係者が集中して真因追求と根本対策すること」と力説した。



さらに、トヨタ生産方式“標準のないところに改善はない”に基づきながら、誰がやっても必ず狙い通りのものができる「標準」を示すためには「すべての作業点や加工点を考えて要件を明確にする」「『強く締める』、『十分に塗布する』といった個々の主観に委ねるような曖昧な表現は使わない」と具体的にすぐ取り組むべき事例を紹介した。

「人は必ずミスをする。それを減らすため、いかに事前に手を打つか、また起きてしまったことに対していかに素早く対応するか。ミスを個人のものと咎めるのではなく、作業改善のための検討材料と捉える前向きな職場づくりも重要」と説いた。

セミナーは製造部門の役割や安全管理等、5つのテーマに沿って進行。豊富な経験と幾多の解決事例に基づいた内容に受講者は熱心に耳を傾けていた。